

「改良」について

しかし、政治的諸改良にかんする自由主義者の改良主義のなかには「現実的なもの」はなに一つないという点にこそ、問題がある。言いかえれば、サラーズキンの要求している諸改良のどれをとってみても、それへ通ずる改良主義的な道はどんな小さなものもないし、またありえないということ、商人も、国会で多数をしめているオクチャブリストおよびカデットも、すべてのものがよく知っている。みながこれを知っており、理解しており、感じている。

だから、なんでもお好みしだいの改良について大げさな、誇張した、はでなおしゃべりをやるよりも、改良主義的な道はないことを率直に指摘することに、はるかに多くの歴史的現実主義、歴史的な現実性と能動性があるのだ。改良主義的な道はないことを確実に知り、この知識を他人につたえるものは、改良を口にしながら自分で自分の言葉を信じていないおしゃべり屋よりも、民主主義を進歩させるために保険をも、どんな「可能性」をも利用する点で、実際に千倍も多くのことをやっているのだ。

世界史が何百回も確証した真理、すなわち、改良は、改良主義のあらゆる狭隘さから完全に解放された運動の副次的結果としてのみ可能であるという真理は、現代のロシアにとってはとくに正しい。だからこそ、自由主義的改良主義は、こんなに生気がないのだ、だからこそ、改良主義にたいする民主主義派と労働者階級の軽蔑は、こんなに生きいきとしているのだ。

第 19 卷 P344 『ロシアのブルジョアジーとロシアの改良主義』

『セーヴェルナヤ・プラウダ』第 21 号、1913 年 8 月 27 日

ポイント

世界史が何百回も確証した真理は、「改良は、改良主義のあらゆる狭隘さから完全に解放された運動の副次的結果としてのみ可能である」ということである。だから、なんでもお好みしだいの改良について大げさな、誇張した、はでなおしゃべりをやるよりも、改良主義的な道はないことを率直に指摘することに、はるかに多くの歴史的現実主義、歴史的な現実性と能動性がある。改良を競うよりも、「マニフェスト」のペテンを暴露せよ！